

音楽科部会

研究主題 豊かな感性をもち、自ら音楽活動を楽しもうとする生徒の育成

1 主題について

今年度は、昨年度の生徒の知覚・感受を大切にした授業作り、手立ての工夫をさらに進め、言語活動の充実とかかわらせながら、表現する喜びを味わえる授業実践を積み重ねていくことを目指し、本テーマを設定した。

2 今年度の取組

| 月 日 | 実践内容 | 月 日 | 実践内容 |
|-------|---------------------------|--------|--------------------------|
| 4月11日 | 第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成 | 10月29日 | 第2回総合研究会 授業研究会（花岡中学校） |

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成25年10月29日（火）
 - ・会 場 花岡中学校
 - ・題材名 曲のしくみを理解して聴こう
 - ・授業者 加藤 翔太郎
- 「交響曲第5番 ハ短調 作品67」より第1楽章

① 授業者から

- ・今日の授業のねらいは、「動機の繰り返し」と「第1主題と第2主題の違い」の2つにしぼった。本時は、全員がねらいを達成できたと感じている。しかし、そこに至るまでの過程が教師から生徒へ一方通行で、主体的な活動で生徒に楽しさを感じさせることができたか疑問である。
- ・ワークシートの活用の仕方に迷いがあった。主題の違いを個人で書く欄を設けたが、グループでの活動に変更した。
- ・音源はブロムシュテット指揮、シュターツカペレ・ドレスデン演奏のものである。ねらいを達成するために生徒が知覚しやすいと思われる、オーソドックスなスタイルで、落ち着いた演奏のこの音源を選択した。

② 協議

- ・生徒のイメージーションが豊富で、感じたことを言葉にする力があつた。
- ・学習規律がよく身に付いていて、話し合い活動も有効に機能していた。
- ・教材が豊富だった。特に、拡大楽譜とカラーセロファンは、視覚的に楽曲の仕組みをとらえやすかったように感じた。また、生徒が意欲をもてるように活動が多様であった。
- ・拡大楽譜では、4段が同時に進むことを生徒はとらえられていたか。
- ・ホワイトボードは、黒板に貼り出すことでグループ間での共有が図られるのではないか。
- ・シートは何を書かせるか吟味していきたい。鑑賞の授業では、曲の第一印象を話す場面や書かせて深めさせたい場面がある。全体でつかむもの、個人でつかむものを考えたい。
- ・評価規準に関して、本時は、1時間目に関心・意欲・態度の評価であったが、実際には知覚・感受も入っているのではないか、その線引きにいつも難しさを感じる。
- ・導入でめあてを出すまでの流れがよかった。課題の中の作戦という言葉に生徒はやる気を

出していた。

- ・ベートーベン是谁もが知っている。→印象深い作品という切り返しがよくかった。
- ・第2主題の始まりのところで挙手をさせたが、生徒は4小節前の転調したところで挙手をしてた。なぜそこからだと感じたのか問い直してもよかったのではないか。第3グループの話し合いに出てきた、音が短い、長いという生徒の発言が使えたのではないか。
- ・第2主題に入る4小節前の部分は、第2主題の導入、第2主題の合図として扱ってもよいのではないか。
- ・聴き取った音楽の特徴に関して、ゲーム関連の言葉が出たが否定してはいけない。しかし、そのままでいけない。なぜそう思ったか音楽の要素と関連させて考えさせたい。
- ・魔王という発言が出た時に、要素やなぜそう感じたか根拠に迫ると魔王の鑑賞経験が生きてくる。教師が音楽の言葉で翻訳してあげることが大切である。



【生徒の知覚・感受の見取り】

(2) テーマ研究 研究主題に迫るための鑑賞指導の実践交流を行った。

(3) 指導助言（田中 覚 指導主事）

- ・学習規律がよく身に付いており、背筋が伸び顔がしっかり上がっていた。男女とも協力的に取り組んでいた。
- ・インパクトのあるめあてを提示し、生徒が興味をそそられていた。
- ・冒頭の4小節間を聴かせたことを基に、生徒とのやりとりから、生徒全員が今日の学習のスタートラインに立てていた。
- ・リズム譜や拡大楽譜等の教材の活用や生徒の発言の引き出し方がよかった。
- ・3台のCDを準備する等、場の設定や機器の活用がよく、生徒がまともに生かしていた。
- ・全員に第1主題、第2主題を聴かせることで提示部の構造のひとつを確認することができた。本時の活動につながるころなので大事にされていたところがよかった。
- ・最後にめあてに対する振り返りを行い、指導が一貫していた。
- ・楽曲全体を味わって聴くことができるようにするために、楽曲の大まかな全体像を捉えた上で部分的な特徴について学習させたい。そのために最初はじっくりと聴かせ、生徒の発言から知覚したことや感受したことを引き出し、それを基に課題を設定するようにしたい。
- ・分析的な鑑賞をするためには生徒にその意義を理解させること、指導事項に合ったねらいと〔共通事項〕を適切に設定し、生徒が感じ取ったことと音楽を形づくっている要素とを関わらせて、根拠をもって発言できるように知覚・感受の学習を大切にしたい。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・本時のねらいを達成させるために、生徒が知覚・感受しやすい音源を精選したり、知覚したことを視覚的に確かめるための教材を工夫したり、生徒が楽曲とかかわりながら主体的に活動できる場を設定したりするなどの研修を深めることができた。

(2) 課題

- ・指導事項に合ったねらいの明確化と〔共通事項〕の適切な設定、また、そのねらいに迫るための生徒の知覚・感受を基にした授業構築の在り方をさらに考えていきたい。